

「高等学校 第2学年 総合的な学習の時間」を想定した学習指導案

1 単元名 「郷土和歌山の魅力を再発見！」

2 単元の目標

- ・地元和歌山の自然環境を、地形・地質、生物界、これらが織りなす生態系や景観などといった点から見つめ直すことにより、その魅力、価値、重要性に気づかせる。
- ・体験的、探究的な学習を通して自分たちの地域に関する興味・関心を高めるとともに、科学的思考と、課題解決能力を育成する。
- ・他者と協力して、よりよい未来像を想像しながら、課題解決に向けて根気強く取り組む態度を育てる。

3 教材観

地元和歌山の環境・自然・地域資源は非常に豊かで貴重なものである。その現状を学ぶ過程で、日常ではあまり接点のない地域の人々や専門家と交流することは、新たな気づきを得ることができ、非常に意味がある。また、自分たちを取り巻く身近な環境や自然であるからこそ、自らの問題として捉えやすく、主体的に取り組みやすい。

4 指導観

自分たちで地元和歌山の環境や自然について調べ、話し合って情報を共有するとともに、地域の環境や自然について専門的な知識をもつ人から話を聞くことで、改めてそれらの今まで知らなかった魅力、価値、重要性について気付かせる。その中で、それらの現状の課題を見つけ、その課題をどのように解決していくべきか話し合うとともに（仮説をたてる）、身近にできるところから実践し、その結果を振り返り、よりよい取組みとするために改善し再び実践する過程を繰り返させる。それらの行動を通して、自ら新たな価値観を生み出したり、周囲の変化を振り返り更なる行動を起こしたりすることで、持続可能な社会へとつながることを実感させる。

5 ESD の観点

《多様性》 和歌山の自然環境について、貴重な生態系など数多くの生物の生息が認められており、和歌山の森、里、川、海が織りなす自然の多様性について考えることができる。

《有限性》 災害や過疎化・高齢化による生活基盤の産業の衰退などにより、豊かな自然や資源も限りあるものであると考えると同時に、未来の地域の自然について考えることができる。

《他者と協力》 グループでの調査活動や実験、それをもとにした考察や発表のための資料作成などを通して、積極的にコミュニケーションしようとする力を育てる。

6 単元の展開（全60時間）

予定 時 数	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションで学習の見通しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的な学習活動を促進し、指導助言することを心掛ける。 	関心・意欲・態度
15	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山の環境・自然についての専門家の講演（話）を聞いたり、インターネットや文献調査による情報収集をすることにより、地元和歌山の自然について改めて関心を持ち、その魅力、価値、重要性について掘り下げて考える。 ・課題研究のテーマを設定する。 ・グループを決める。 ・研究、調査の計画を立てる。 <div data-bbox="279 1160 678 1473" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【博物館学芸員等の地域資源に詳しい外部専門家の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元和歌山の自然環境の希少性や文化の歴史的背景等について知り、価値を学び、研究・探究の対象とする意義が大きいことを知る。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究に向けて、探究の面白さや醍醐味を抱かせることに留意する。 ・少しでも興味・関心のあることや疑問があれば、進んで質問したり、調べたりするとともに、それに関連する事柄についても調べるよう助言する。 ・先行研究調べをさせることで、すでに結果が分かっていることなのか、独自性・創造性があることなのかを見極めさせるとともに、周辺知識も学ばせる。 ・研究範囲、時間、施設など、研究・調査が可能なテーマであるかを生徒と話し合いながら進めていく。 <div data-bbox="705 1191 1241 1456" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【博物館学芸員等の地域資源に詳しい外部専門家の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山の自然・文化等に関する知識を得るだけでなく、探究の面白さや醍醐味を抱かせようとしている指導者の意図を、講演者に伝える。 </div>	関心・意欲・態度 思考・判断・表現 技能 知識・理解
26	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて研究、調査活動 ・校内中間発表に向けてのスライド作成及び発表練習。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究、調査の進み具合について生徒と話し確認しながら、生徒に現状を判断させ、方法や計画を柔軟に修正していくよう助言する。 ・生徒の主体性の育成を念頭に指導助言する。 ・PDCA サイクルを意識して回すように助言する。 ・発表用ループリックを提示し、自己評価させながらスライド作成や発表練習をさせる。 	技能

	<p>【博物館学芸員等の地域資源に詳しい外部専門家の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、研究グループ単位で、専門家の助言を求める。 	<p>【博物館学芸員等の地域資源に詳しい外部専門家の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究グループの課題探究の意欲が高まるように、質問等を促して、専門家からの適切な助言がなされるように配慮する。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・校内中間発表会で、現段階までの研究・調査の成果及び今後の見通しを発表する。 ・質問やアドバイスを受け止め、今後どう反映させていくのかを決め、研究計画に落とし込む。 <p>【博物館学芸員等の地域資源に詳しい外部専門家の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告に対する助言で、学芸員・農家・漁師等の専門的立場からの意義・解釈等にも触れ、第三者的な視点に気付く機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表後に振り返りをし、今後の計画について話し合わせる。 <p>【博物館学芸員等の地域資源に詳しい外部専門家の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家からの助言等を適切に要約・取りまとめて、研究グループや生徒全体に伝え、探究する意欲が高まるようにする。 	<p>関心・意欲・態度</p> <p>技能</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・追加研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッションまでの時間を考慮しながら研究計画を再度見直すよう助言する。 	<p>技能</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッションに向け、ポスター作成及び発表練習。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター用ルーブリックを提示し、自己評価させながらポスター作成や発表練習をさせる。 	<p>技能</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッション。 <p>【博物館学芸員等の地域資源に詳しい外部専門家の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究グループの発表に対し、自然・文化等の地域資源との関わりへ意識を向けながら、研究成果の意義や研究過程への感想等を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒、専門家や地域の方とのポスターセッションを振り返り、自分たちの研究について、さらに多面的に考察するよう助言する。 <p>【博物館学芸員等の地域資源に詳しい外部専門家の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発表内容に対して、成果を認めるとともに、具体的な感想・助言を求める。 	<p>関心・意欲・態度</p> <p>技能</p>

7 評価規準

評価の観点	評価規準
<p>関心・意欲・ 態度</p>	<p>(1) 地元和歌山の自然について改めて関心を持ち、その魅力、価値、重要性に気づいている。</p> <p>(2) 自らの興味・関心に応じた研究テーマを設定しようとしている。</p> <p>(3) クラスメイトや地域の専門家等、誰とでも協働できる感性や態度が向上している。</p> <p>(4) 自らの周囲の環境・自然、クラスメイトや地域の方とのつながりを再認識し、その大切さを実感している。</p> <p>(5) 取組みの成果と自らの考えを周囲に発信し意見交換することにより、初対面の相手（他者）を理解し受け入れようとする姿勢が向上しているとともに、自らを振りかえっている。</p>
<p>思考・判断・ 表現</p>	<p>(1) 和歌山の環境・自然について収集した情報を多面的にとらえ、自分とのつながりを多角的にまとめている。</p> <p>(2) 和歌山の環境・自然の現状を踏まえ、そこにある課題を自ら見つけ出し、自らの問題として捉えている。</p>
<p>技能</p>	<p>(1) 自らテーマ（課題）を見つけている。</p> <p>(2) 課題解決に向けて仮説を立てている。</p> <p>(3) 課題解決に向けた具体的方法（研究方法）吟味して研究を進めている。</p> <p>(4) 結果を正確に記録できている。</p> <p>(5) 結果を振り返り、新たな行動につなげている。</p> <p>(6) PDCA サイクルを意識的に活用している。</p> <p>(7) 研究の成果をまとめ聞き手に応じてわかりやすく伝えることができる。</p>
<p>知識・理解</p>	<p>・和歌山の環境・自然に関する専門家からの話や意見に耳を傾け、それらに関する理解が深まっている。</p>